

## 5月の植物

### アベマキ (ブナ科)

学名 : *Quercus variahilis* Blume

アベマキは本州の岩手県以南から四国、九州に分布するが、特に西日本に多い落葉高木で、いわゆるドングリができる仲間である。高さ 15m、幹は直径 40~60cm にもなり、巨木も多い。樹皮の内側にコルク層が発達する点もアベマキの特徴だ。樹皮は縦に不規則な割れ目があり、葉には長さ 1.5~3.5 cm の葉柄があり互生する。葉身は細長く、葉縁は鋸歯がある。一見するとクヌギによく似ている。樹皮は縦に割れる点では似ているが、割れ目が灰褐色のクヌギに対し、アベマキは灰黒色である。また、葉の裏はクヌギの緑色に対し、アベマキの葉の裏は白っぽく全体に毛が密生する点で異なる。

花期は 4~5 月。新枝の下に長さ 10cm ほどの雄花序が垂れ下がる。秋にはアベマキもクヌギに似た丸い堅果（どんぐり）をつける。殻斗の鱗片（モジャモジャの部分）が長く、反り返って厚みがあり、やや楕円でクヌギより少し小ぶりだ。

さて、公園や学校への植栽が見られるものの佐賀県では野生種は稀である。そして神崎市千代田町の貴別当神社の<sup>きべつとう</sup>アベマキは「さが名木 100 選」にも選ばれている。筆者にとっては、武雄市武雄町の柏岳南麓にある円応寺の周囲にある数本のアベマキが印象深い。コルク層のふわふわ感がなんとも気持ちよく、好きな樹木の 1 つである。

(文責：小池英毅)

